



プレスリリース

速報版

GENIVI アライアンス、 ビークル・ドメイン・インターアクション 計画を発表

新たな車載ソフトウェアのネットワーク化計画

カリフォルニア州サン・ラモン - 2017年10月9日 - 自動車メーカーと部品メーカーを対象にした、オープンで協力関係にあるソフトウェア開発コミュニティの GENIVI アライアンスは、複数の車載ソフトウェア領域をネットワーク化するのに必要なパスを定義する、オープン規格のインターフェースとコードに焦点を当てた、ビークル・ドメイン・インターアクション計画を発表します。

ソウルの全会員ミーティングで発表された、新たな GENIVI ビークル・ドメイン・インターアクション計画は、システムオンチップ (SOC) の一本化という、ソフトウェア (たとえば、安全、インフォテイメント、民生電子機器等) ネットワーク化の必要性が生じた、主要市場からの要請に応えたものです。複数の車載ソフトウェア領域の一体化は、一領域で生成された情報やデータを他領域でも表示および制御する上で不可欠です。

「ビークル・ドメイン・インターフェースは注目されているテーマですが、GENIVI は必要とする複数ソフトウェアのパス定義において、独自に重要な役割を果たしています」と、GENIVI アライアンス会長の Peter Schönenberg は語りました。「多様な企業によるソフトウェアのインターフェース開発と一体化に関する、アーキテクチャーとノウハウに本領を発揮してきたことから、関係企業の協力のもと、GENIVI コミュニティはドメイン・インターアクションに求められている、オープン規格インターフェースとコードを開発していきます。

-続く-



本計画の主な狙いは、必要とする複数ソフトウェア領域のネットワーク化を容易にする、一連の規格ソリューションとインターフェース（API）となります。定義した全インターフェースのコード作成という GENIVI の作業を継続し、コードの概念実証も実現した暁には公に配布します。GENIVI 会員と自動車業界は、複数ソフトウェア領域機能、データ管理、その他に必要な定義したインターフェースとソリューションを活用することによって、常時恩恵を受けられることとなります。これにより、一層効果的な開発、試験と品質の改良、首尾一貫した規格の活用でソリューションのバイヤーは極めて多くの選択といった効果を得られます。

加えて、効果的なソフトウェア領域を一体化させる技術を生み出すため新たに着手した作業によって、GENIVI プログラムで現行の IVI とコネクテッド車の両立を維持できるでしょう。

「GENIVI は、会員の貢献や資金援助による、オープン、IVI、そしてコネクテッド車ソフトウェア提供という使命を諦めるということはありません」と、GENIVI アライアンスの常勤役員である Steve Crumb は語りました。「AUTOSAR、Google/Android、SOC、ハイパーバイザーのベンダーといった会員、非会員、その他の主要企業とオープンかつ協力し合い、ベークル・ドメイン・インターフェース実現のため、応用例、インターフェース定義、モデル、コード、文書、導入に向けた研修を実施していきます」

GENIVI アライアンスについて

[GENIVIアライアンス](#)は非営利団体であり、交通業界に向けて、オープンソース、車載インフォテインメント（IVI）、コネクテッド車用ソフトウェア等の提供に注力していきます。団体は会員に対して140社を超える企業のグローバル開発コミュニティを提供、協力体制の下で世界一流の開発者（デベロッパー）と自動車ソフトウェアの出資者となったことで、無料のオープンソース自動車ソフトウェアに結びつきました。GENIVIはカリフォルニア州サン・ラモンに本社があります。

マスコミ窓口 - GENIVI アライアンス :

クレイグ・マイナー

GENIVI アライアンス

+1.248.840.8368

cminer@quell.com